

神の母聖マリア

ルカ 2・16-21

2022.1.1

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高神父

一年の最初の日、今日はこの日を神の母聖マリアの祭日と定めています。このミサもわたしたちが聖母マリア様の御取り次ぎを願って、この一年わたしたちが力強く神の子らとして生きて行く恵みを願ってお捧げいたします。

神の御母がわたしたちにそのあわれみの眼差しを向けてくださるように、わたしたちはこの涙の谷、今わたしたちが生きているこの世界の全ての人々の苦しみの中で流される涙、そのわたしたちの涙を共にして、聖母マリア様を仰ぎ見たいと思います。

神学校にいた頃、毎晩、晩の祈りの最後に、灯りを落として、**Salve Regina**の歌を歌います。涙の谷から、わたしたちの母である聖母マリア様を仰ぎ見て、「どうぞこの人生の終わりの時に、あなたの御子イエス・キリストの御顔をわたしたちに仰ぎ見させてください」、そのように祈ります。今も、司祭の葬儀の時、列席している司祭たちは、その司祭の棺を囲んでこの**Salve Regina**の歌を歌います。**Salve Regina**は、**Ave Maria**と同じように聖母マリア様を仰ぎ見てその御取り次ぎを願う祈りです。その母の心をもってわたしたちを抱こうとしていてくださる聖母にわたしたちの全てを託して、この人生を全うすることのできる恵みを願い合いたいと思います。わたしたちの人生の最後に、聖母がその御腕の中に、かつて御子イエスを抱き取られたように、わたしたちの一人ひとりを抱きしめてくださって、わたしたちを父なる神の御傍に導き昇ってくださるよう祈り願いましょう。

この一年、まだまだ大きな苦難がわたしたち一人ひとりに、わたしたちの周りの人々に、そして世界中の人々に襲い掛かってくる、そのような苦しみの中にも、どのように涙を流そうとも、わたしたちの信仰においてしっかりと生きて行くことができるために、今日、神の母聖母マリア様の御取り次ぎを願ってこのミサを捧げ、祈り求めたいと思います。

世界中が一番恐ろしい戦争をすることなく、お互いが自分自身を、自分たちを守ることに懸命で、そのためにかえって周りの人々、周りの国々に、自

己防衛のための戦をこれ以上しないように、この一年の最初の日、聖母マリア様の御取り次ぎを願って、世界の平和のために、教皇様と心を合わせて祈りたいと思います。